

オープン前日

「花風屋」のオープン
を明日に控えても、な
り口には跳んで行き、「花
かなかはかどらない作
業。夕方にはめどを付
けなければと焦りに焦
っているところに現れ
たのは、ご高齢のお三
人。ノンビリと店内を
あちこちと歩き回り、最
後に洋服を差し出し、
「これ下さ〜」

「はい？」
「随分安いね」
「はい！ 札幌一安い
リサイクルショップを
目指しています。実は、
明日が開店なんです
よ」

「そしたら、僕が初めて
のお客ってわけだ」
というところで、オー
プン前日にお客さん第
一号が誕生してしま
いました。
その次に来たのが、
小学生三人組。
「ここで遊んで良い
の？」
「良いですよ。でも、お
約束はお家の人にご
に来ることを言ってく
ることと、他のお客さ
んに迷惑をかけないこ
と。分かった？」
「うん。わかった」
との会話の後で、三
人組はカードゲームを
始めていました。
そのほかにも、通り
がかりの人が
「ここ何の店なの？」
「いつ開店するの？」
などとドアから顔を
のぞかせ、聞いてきま
す。ご近所のみなさん
は、長い間シャッター
が閉じたままの場所に

何ができるのか興味深
かったようです。声を
掛けられるたびに、入
り口に跳んで行き、「花
風屋」の趣旨が書かれ
たチラシを手渡し、「明
日開店ですので、よろ
しくお願いします」。

どなたかが来るたび
に作業は中断してし
まうのですが、なぜか
段々と焦りの気持がな
くなっていききました。
それどころか、声を掛
けられてする会話が楽
しくなってきました。
花風屋は「いらっしや
いませ」とあり
がとうござい
ました」

NPO法人在宅生活支援 サービスホーム花風

木村美和子理事長



ら用意していたエプロ
ンを着け
「よくいらしてくれま
した。良いものたくさ
んあって、もうビック
リ」
とお客様に話し掛
け、購買意欲をそそり
ます。お酒大好きの方
性Nさんは、口数の少
ない方のはずなのに
「これなんかどうです
か？」
とお客様にお勧め。
笑ってしまったのは、
お勧めする相手が若い
女性ばかりで、勧めた
見えられ

と婦人セーターを勧
めていました。相手を
煙に巻きつつ品物を勧
める販売術は「お見
事！」の一言でした。

オープン初日終了

午後六時には予定通
りクローズし、第一回
目の反省会。反省は、
素人店員揃いだっただ
め何事もスムーズに行
かなくて、お客様を待
たせたり、戸惑わせて
しまったことに尽きま
した。それなのに評価
できたことは、全員一
致でお客様とたく
さん会話ができて
楽しい時間が持て
たこと。



花風屋オープン、老若男女が来店し、老若男女が
迎えて働き、感謝、感謝のスタート

そして、下宿人
たちのおもてなし
の温かさ。オープ
ンに向けての準備
状況は逐一伝えて
いましたし、実際
見てもらってもい
ました。その間に、
下宿人たちそれぞ
れにとっても「自
分たちのお店」と
いう意識が芽生え
てきていたよう
でした。

説明したり、説

花風屋繁盛記

連載20

人と人がつながって

「ここ何の店なの？」
「いつ開店するの？」
などとドアから顔を
のぞかせ、聞いてきま
す。ご近所のみなさん
は、長い間シャッター
が閉じたままの場所に

れ、対応が間
に合わないよう
状態になってしま
した。

オープン当日

二〇〇六年五月一

そこで大活躍したの
が、我が下宿人たち。
Dさんは、一週間前か

日午前十
時に「ば
りあふり
ーしよっ
ぷ 花風
屋」をオ
ープンさ
せまし
た。お客
様は、は
たして来
てくれる
のか？
という不
安でいつ
ぱいだっ
たのです
が、開店
と同時に
お客様が
ドドーン
と来てく
れ、対応が
間

得しなくても「こんな
ことをしたい」「こんな
ことをしよう」を形に
した下宿人たちは、ま
な強力なサポーターが
身近にいるんだから、
これからも頑張ると
思いました。

そして「花風屋サポ
ーター基金」のサポー
ターもこの日で百人を
超えました。